

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	分子微生物学	1①②		2		○				1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	応用生物工学A	1③		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	応用生物工学B	1④		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	2①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	英語特別課題演習	1③④		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	安全工学	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	工学日本語Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	7		
	工学日本語Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	7		
	E S P バイオテクノロジーA	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	E S P バイオテクノロジーB	1①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	E S P 先端化学A	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	E S P 先端化学B	1①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
小計（32科目）	—	5	42	0	—			8	9	1	7	0		
教高 育度 科教 日養	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2					8	9	1	7		
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			8	9	1	7	0	
合計（33科目）		—	5	44	0	—			8	9	1	7	0	
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目5単位、専門教育科目から26単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分			4期			
								1学期の授業期間			8週			
								1時限の授業時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	生命科学特論	1①②		2		○									高度国際性涵養教育科目として履修可
	物質科学特論	1①②		2		○			2						
	物性科学特論	1③④		2		○			2						
	物質生命工学研究企画ゼミナール	1通	2				○		7	8			5		
	生命先端工学特別講義Ⅲ	1①②		2		○			7	8			5		
	生命先端工学特別講義Ⅳ	1③④		2		○			7	8			5		
	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1		6		
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1		6		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1		6		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		7	8	1		6		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		7	8	1		6		
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1						高度国際性涵養教育科目として履修可
	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1		7		
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1		7		
合計（30科目）		—	4	37	0	—			8	9	1	7	0		
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等							
生命先端工学専攻博士後期課程に3年以上在学し、各コース等（物質生命工学コース、生物工学コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。								1 学年の学期区分				4 期			
								1 学期の授業期間				8 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
(工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 物質生命工学コース) 【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生命科学特論	1①②		2		○								
	物質科学特論	1①②		2		○			2					
	物性科学特論	1③④		2		○			2					
	物質生命工学研究企画ゼミナール	1通	2				○		7	8		5		高度国際性涵養教育科目 として履修可
	生命先端工学特別講義Ⅲ	1①②		2		○			7	8		5		
	生命先端工学特別講義Ⅳ	1③④		2		○			7	8		5		
合計（6科目）		—	2	10	0	—			7	8	0	5	0	
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
(物質生命工学コース) 上記科目から必修科目2単位を含め、専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1 学年の学期区分			4 期			
								1 学期の授業期間			8 週			
								1 時限の授業時間			9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
(工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 生物工学コース) 【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6		
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6		
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		7	8	1	6		
	海外フィールドスタディS	1①②		1			○		1					
合計（11科目）		—	0	15	0	—			7	8	1	6	0	
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係					
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
(生物工学コース) 上記科目から専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4期		
								1学期の授業期間				8週		
								1時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可	
合計（13科目）		—	2	12	0	—			8	9	1	7	0		
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目2単位を含めて、専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4期			
								1学期の授業期間				8週			
								1時限の授業時間				90分			

(工学研究科 精密科学・応用物理学専攻 博士前期課程) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	材料物性学特論	1③④		2		○			1			1		
	薄膜材料科学特論	1①②		2		○				1				
	半導体表面科学特論	1①②		2		○				1				
	光科学特論	1③④		2		○				1				
	物理計測特論	1③④		2		○			1					
	表面原子制御特論	1③④		2					1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	極限精密加工学特論	1①②		2		○			1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	精密科学機器特論Ⅰ	1①②		2		○				1				
	精密科学機器特論Ⅱ	1③④		2		○			1					
	量子シミュレーション特論	1①②		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	計算科学特論Ⅰ	1①②		2		○					1			
	計算科学特論Ⅱ	1③④		2		○					1			
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1				
	精密科学特論Ⅰ	1①②		2		○								集中
	精密科学特論Ⅲ	1①②		2		○								集中
	精密科学演習Ⅰ	1①②	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4
	精密科学演習Ⅱ	1③④	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4
	精密科学演習Ⅲ	2①②	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4
	精密科学演習Ⅳ	2③④	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4
	超音波工学	1①②		2		○			1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	物性物理	1①②		2		○					1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	表面・界面物性	1③④		2		○					1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノ物性計測工学	1①②		2		○			1					
	ナノ量子工学	1③④		2		○				1				
	画像・信号処理	1③④		2		○								高度国際性涵養教育科目として履修可 兼1
	ナノ材料工学	1③④		2		○			1					
	生体デバイス工学	1①②		2		○			1					
	光計測工学	1①②		2		○			1					
	光学分光学とナノ画像法	1③④		2		○			1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	分光学の数学的基礎	1①②		2		○								
	有機半導体デバイス物理	1③④		2		○			1					
	光量子工学	1①②		2		○								
時空間フォトリクス	1①②		2		○				1					
物性分析工学	1③④		2		○			1	1					
物理工学特論Ⅰ	1①②		1		○								高度国際性涵養教育科目として履修可 兼1	
物理工学特論Ⅱ	1③④		1		○									
応用物理学実験	1①②		1				○	6	4		8			
応用物理学演習Ⅰ	1①②		1			○		6	4		8			
応用物理学演習Ⅱ	1③④		1			○		6	4		8			
応用物理学ゼミナール	1通		4			○		6	4		8			
分子電子工学	1①②		2		○			1	2				高度国際性涵養教育科目として履修可	
ナノプラズマ工学	1①		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可	
理論物質科学	1①②		2		○								高度国際性涵養教育科目として履修可 兼1	

	固体電子論Ⅰ	1①②		2	○										高度国際性涵養教育科目として履修可 兼1
	解析力学	1③④		2	○			1	1						高度国際性涵養教育科目として履修可
	電子線ナノ計測学	1③④		2	○				2						高度国際性涵養教育科目として履修可
	化学反応論（Ⅰ）	1②		1	○			1	1	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
	半導体物性論	1①②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	量子材料物性論	1①②		2	○				1						高度国際性涵養教育科目として履修可
	計算力学特論	1③④		2	○				1						高度国際性涵養教育科目として履修可
	固体力学特論	1①②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	核融合物理学	1①②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	量子計測学	1③④		2	○			1	1						高度国際性涵養教育科目として履修可
	光マイクロ機械計測学	1①②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	原子炉の制御	1③④		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	原子炉物理学	1①②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可
	データマイニングの基礎と実践	1②		2	○			1							高度国際性涵養教育科目として履修可 集中
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅠ	1通		9	○			2	2						兼2
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅡ	1通		9	○			9							兼3
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅢ	1通		9	○			5	2						兼3
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅣ	2通		9	○			2	2						兼2
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅤ	2通		9	○			9							兼3
	量子エンジニアリングデザインセミナーⅥ	2通		9	○			5	2						兼3
	小計（63科目）	—	8	152	0	—		12	10	0	14	0			兼16
涵養 高度 国際性 教育 科目	工学英語Ⅰ	2①②		2	○										兼4
	工学英語Ⅱ	2③④		2	○										兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2		○									兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2		○									兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1			○								兼4
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2	○										兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2	○										兼4
	小計（7科目）	—	0	13	0	—		0	0	0	0	0			兼5
教高 育度 科教 目養	精密科学特論Ⅱ	1③④		2	○										兼1
	計算機ナノマテリアルデザインチュートリアルⅠ	1③④		1	○			1	1						兼5 集中
	計算機ナノマテリアルデザインチュートリアルⅡ	1①②		1	○			1	1						兼5 集中
	小計（3科目）	—	0	4	0	—		1	1	0	0	0			兼6
合計（73科目）		—	8	169	0	—		12	10	0	14	0			兼27
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法					授業期間等										
精密科学・応用物理学専攻博士前期課程に2年以上在学し、各コース等（精密科学コース、応用物理学コース、量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。					1学年の学期区分					4期					
					1学期の授業期間					8週					
					1時限の授業時間					90分					

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 精密科学・応用物理学専攻 博士前期課程 精密科学コース）【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	材料物性学特論	1③④		2		○			1				1	
	薄膜材料科学特論	1①②		2		○				1				
	半導体表面科学特論	1①②		2		○				1				
	光科学特論	1③④		2		○				1				
	物理計測特論	1③④		2		○			1					
	表面原子制御特論	1③④		2		○			1					
	極限精密加工学特論	1①②		2		○			1					
	精密科学機器特論Ⅰ	1①②		2		○				1				
	精密科学機器特論Ⅱ	1③④		2		○			1					
	量子シミュレーション特論	1①②		2		○			1	1				
	計算科学特論Ⅰ	1①②		2		○								
	計算科学特論Ⅱ	1③④		2		○				1				
	応用表面科学	1③④		2		○			1	1				
	精密科学特論Ⅰ	1①②		2		○								集中
	精密科学特論Ⅲ	1①②		2		○								集中
精密科学演習Ⅰ	1①②	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4	
精密科学演習Ⅱ	1③④	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4	
精密科学演習Ⅲ	2①②	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4	
精密科学演習Ⅳ	2③④	1				○		6	6		6		高度国際性涵養教育科目として履修可 兼4	
超音波工学	1①②		2		○			1						
小計（20科目）		—	4	32	0	—			6	6	0	6	0	兼4
涵 養 教 育 科 目	工学英語Ⅰ	2①②		2		○								兼4
	工学英語Ⅱ	2③④		2		○								兼4
	0JE方式による演習Ⅰ	1③④・ 2①②		2			○							兼4
	0JE方式による演習Ⅱ	1通		2			○							兼4
	インターンシップ	1③④・ 2①②		1				○						兼4
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○								兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○								兼4
小計（7科目）		—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	兼5
教 高 育 度 科 教 目 養	精密科学特論Ⅱ	1③④		2		○								兼1
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1
合計（28科目）		—	4	47	0	—			6	6	0	6	0	兼10
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係					
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等						
（精密科学コース） 上記科目から必修科目4単位を含めて20単位以上、専門教育科目から28単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上及び高度教養教育科目から1単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語Ⅰ・Ⅱは、上記科目から必修科目4単位を含めて20単位以上の中には含まれないので注意すること。外国人留学生については、工学英語Ⅰ・Ⅱ、0JE方式による演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ及びビジネス日本語Ⅰ・Ⅱは、上記科目から必修科目4単位を含めて20単位以上の中には含まれないこと、および語学科目（工学英語Ⅰ・Ⅱ、ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ）は、4単位を超えて卒業要件単位として認められないことに注意すること。								1学年の学期区分				4期		
								1学期の授業期間				8週		
								1時限の授業時間				90分		